



# 湯本温泉



(湯本専門店会のみやげ売店)

……ゆもと小唄……  
あなた見染めた 常磐線で  
温本帰りの 小粋な浴衣  
袖に湯の香が ほのほのと  
よつせ ころつせ ヨイ湯本  
よかつべ すきだべ ヨイ湯本

## 常磐線で唯一の 近代的温泉郷

常磐線に沿うた一つの湯のまち「湯本温泉」はその昔、三箱(さばこ)の湯、佐波古温泉、鶴の湯などといわれ、才一(さいいち)代実行天皇のころ、近江の岩那、磯那の二人の旅人が佐波古の里(湯本の古名)に来たところ、一羽の丹頂鶴が南方から飛んできて、湯気の立ちこめる岩の間で深傷を洗っているのを見て、親切にたわわておしてやった。それから三週間後、二人があらわれ、佐波古の里をさきひらいて温泉地とするがよい、とのお告げにより二人は、わき出る泉源の近くに草葺きの家をつくり、稲、あわななどを作りながら鶴の湯を洗ったところに石を積み浴槽として鶴の御湯と名づけて温泉地とした。これが湯本温泉のはじめだと伝えられている。そして今から千二百年前の奈良時代には、非常な発達を遂げて日本三名泉の一つとして天下に宣伝され、五十余の浴を有する客は一年中絶え間がなかつたことである。昔に來られた有名な歌人のうたつたものにあらずして別れし人の住む里は三箱の御湯の山のあなただか  
いたつきもいえて都へかへりしは三箱の御湯のしるしなりけり  
などありその当時をしのぶことができる  
泉質は塩類性硫酸泉でラジウムが多量含まれ常に五十五度の温度を保ち皮膚病、胃腸病、神経痛などに効くといわれている。現在では二十数軒の旅館が軒を並べて近代的設備とサービスを誇り芸妓も百名を超え、名実ともに県内屈指の温泉として知られている。

### ★温泉みやげの店、繁盛★

なかの繁盛ぶり。コゲレ、菓子類、絵葉書などの地元名産をはじめ、それぞれの郷土色を生かした全国のおみやげ品を生かして観光客の人気をよんでいる。

### 温泉銘菓 湯乃もち 小松屋

上手な入浴法  
理想的な入浴時刻は朝夕、就寝

の三回で午前は健康増進、夕刻は疲労回復、夜は身心沈静の役を果す。また入浴時間は平均十分十五分が適当でお湯が熱い場合は入浴する前には十分にかゆいかけ(湯を流す)もいれ、心臓を害することがある。お湯につかるには昔から、「乳の上指三本の高さ」がよいといわれているがこれは肺の呼吸運動を妨げないからである。

# 株式会社 武田陶器店 タイル部

平市一丁目 電話 229番

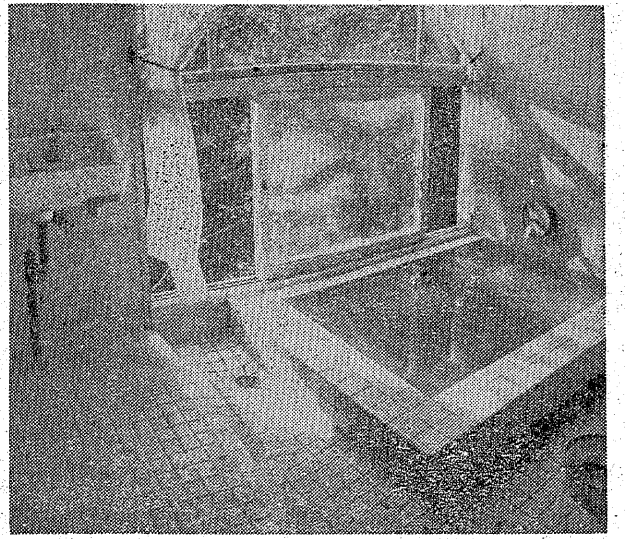
下の湯本温泉のニールツクな浴槽写真は全部当店タイル部の施工です

今晩(二十二日)高松宮様がお泊りになるのが、この旅館です。四階建の新館は一階がスタンダードパーク、二階が舞台つき大広間。三、四階が各洗面所、水洗WCの客間。五、六階は台の山公園、スリ山など常磐市内が一望におさまられます。浴槽は本館に一つ、別館に二つ(ロマンス風呂)の新館に二つあり新館の客室は横笛、東屋、胡蝶、須磨、桐壺などと名づけた近代的建築様式の中にも日本文学的情緒をこめし出しています。観音山を背にした新館の偉大な湯本温泉を代表するものとして観光客の目を惹きつけることとして湯本温泉から五分 電話二〇三三番



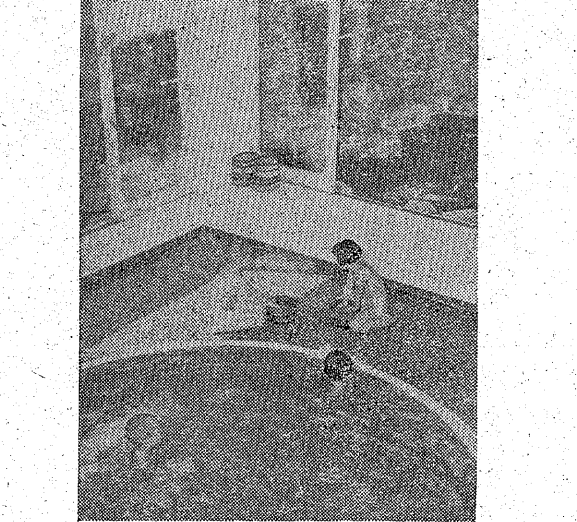
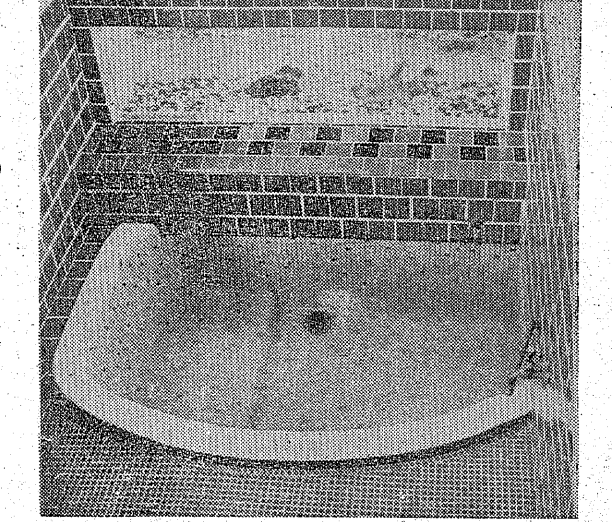
世ともの武田で有名な平市一丁目武田陶器店ではタイルの一流メーカー伊奈製陶におよび王冠マークの上山タイルの特約店として最も優秀な半磁器タイルを最低の値段で、モットーに県内各所にタイルを大きく取り出してきて、更におき浴室台所などの設計と施工には形状や色形の効果に常にニールツクな人々の目を驚かしている。中通りの岳温泉、芦牧温泉にまで手をのべ最近ではアスファルトタイル、プラスチックタイルなどの新しい素材を扱いはじめている。

湯本駅から歩いて五分、静寂な環境と苦心の間どりが見もの。三階廊下の敷石、とび石一つ一本にも静かな数寄屋づくりの客室など、温泉情緒がにじみ出ている。二階から三階に通ずる坂廊下も印象的ですが、それよりも何よりも、そのサビサビとした「またいつの日か」といつか好意をもたせたくれます。泊り客、日帰り客の分けへだてなく本館にお客の身になつてカニとごきでこの旅館の最大の特色です。電話三三三番



「ヒョウタン」から駒が出たという影がありますが、みどりやのヒョウタン風呂からは明日の希望と活力が湧いて出ます。壁面はタイルをちりばめた裸婦像、浴槽にそそぐ湯もまたセト製の裸婦像から、ガラス戸ごしのヒョウタン池には数匹の金魚が泳ぎ、ひとしをの情緒をそそぎます。明るく清らかなヒョウタン風呂は夢の湯殿として浴客の心に忘れがたい思い出をよきつけたいと思ふ。静かな環境が温泉気分を一層ひきたてています。官公庁、各学校指定旅館。湯本駅から四分 電話一七二番

御主人小井戸庄松氏(常磐市議会副議長)の苗字がそのまま旅館名となつている玄關のすく右側がしよしやな応接間、まずここでその美観にドキモを抜かれる三階がすばらしい舞台のついた四十五畳敷き大広間、廊下をへだてて広々としたテラスに展開する御主人自慢の大大広間だけあつて置物一つ、掛軸一つ、本にも吟味のおとがうかがわれる。二階客室はうずもつた数寄屋づくりで温泉気分満点。アカぬけのした旅館という印象をあたえるつくりである。湯本駅から五分 電話一三三番



黄金をちりばめたような見ゆるお庭には天然石を積みあげたお池があつて立木の紅葉を映しています。丸い大きな浴槽は湯本温泉唯一といわれ小さなお子さんがパチパチや泳ぎがでますから温泉ブームへ行つたような気分になります。二階客室から見ゆる観音山の紅葉が秋のおとづれをくげ、浴客の旅情を慰めてくれます。夏は「海の家」として親しみ深いものこの旅館でございます。湯本駅から五分 電話一五九、二五九番

